

# 研究室は 人と人 過去と未来 異なる思想を繋ぐ場所

私が学生だった頃から現在に至るまで、  
恩師、同期、先輩後輩、指導する学生さん、  
様々な人に会い、議論を重ねてきました。  
同じ業界にいれば、共通の課題意識を持っており、  
今でも学会で会い、OB訪問などで会います。  
「研究室」は初対面であっても共通の話題で話が始まり、  
世代を超えて話せる場所であると思っています。



機械システムコース  
講師

## 堤 成可

つつみしげよし  
2010/4～2013/3(3年間)  
香川大学大学院工学研究科  
2013/4～2017/3(4年間)  
東京農工大学工学研究科特任助教  
2017/4～2022/3(5年間)  
三重大学工学研究科助教  
2022/4～  
香川大学へ



教員紹介



研究室紹介

# Mechanical Systems

## 今に至る先生のエピソードを 教えてください

中学生くらいから、どちらかというと理系科目が得意でした。高校では得意科目のある理系に進みました。進学や将来について確固たる考えを持つこともなく、友人たちが行く大学に行きたいと思っていました。あまり地元(岡山)に進学する雰囲気ではなく、自分の成績なども考慮して香川大学に決めました。

3回生で希望した研究室に配属されましたが、卒論は予定していたものとは違うテーマ。ところが、取り組んでみたら面白い!大学院に進学し続けてみようと思うくらい。博士前期課程に進んだ際には、研究をしながらも、自動車に関する業界に就職しようと考えていました。ただ、当時の就職状況があまりよくなかったことと、研究をもっと続けたいという気持ちも膨らんできて、博士後期課程に進みました。博士後期課程では余計なことは考えず、研究だけを

していました。先生(担当教員)からも自由にやっていいよと。方針についてのアドバイスはいただきながら進めていました。学会発表で他の大学の先生とも話すようになると、論文で読むだけではなく、実際の研究室の様子も知りたいと思うようになって見学にもよく行っていました。

最後の一年だけ先生が違ってきます。その先生は企業の研究所にいらした方。その縁で、企業の研究所にも見学に行き、大学などの教育機関で研究を続けるか、企業で研究を続けるのか半々な気持ちでいました。そうした流れで、他大学の研究室での助教を経て、現職に至ります。

旅先で集めている地元コーヒーの紙パック



### 他人が自分の長所を見つける

研究室や卒論のテーマを決めるとき、思っているところにいけない、やりたいことができないということは多くあります。また、希望のところに入ったとしてもやってみると違うこともあります。私は「たまたま」が重なって今に至りますし、流れに乗ったまままきています。ただ、だからこそ出会えた人もいますし、研究にしても面白いと思ったから続けることができています。

### 偶然を呼び込み、偶然を受け入れる

自分というものが理解できていなくても、周りとしっかりコミュニケーションをとっていると、周りの人が他の人と違うところを見つけてくれ「君、ここすごいよね」と言ってくれます。周囲のアドバイス(視点)から自分の長所が分かり、それを活かしていけばいいと思っています。「普段からの付き合いは大事ですよ」と、学生さんに一番伝えたいです。